

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		道路管理事業	担当課	建設課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	道路網・公共交通体系の整備	種別	法定事務
	基本事業	道路の適切な維持管理	市民協働	
予算科目コード	01-080101-02 単独	根拠法令・条例等	道路法	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 市内全域において、新設改良，拡幅改良，維持補修等を実施した路線の構造，区域，道路施設等，道路管理に必要な事項の道路台帳補正のほか，測量業務等を行う。
道路の適切な維持管理を図るため，道路法により道路台帳の調製，保管及び閲覧に供することが定められているため。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
道路台帳及び道路境界確定図書ファイリングシステムの更新により，最新の市道の現況を的確に捉え，維持管理を適切に行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
歩行者・自転車・自動車が安全に通行できるよう，維持管理や補修を行う。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
道路境界確定図書をファイリングすることにより，境界資料の調査や問い合わせ対応が速やかになっているが，過年度分の膨大な資料を予算の範囲内で順次更新しているため，最新の状態にするまでに年数を要している。真に必要な資料のファイリングをしていく。	境界資料の整理 通年 データ更新スケジュール ～12月 境界立会い資料のデータ化の選別 1～2月 ファイリングシステムデータ更新
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
ファイリングすべき資料を整理し，重複や余分な資料を省きファイリング量を削減することで，多年度分の更新が可能となるようにする。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	道路台帳補正業務において，道路認定・廃止等の件数の大幅な増減は見込まれないため，現状維持とする。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
道路台帳及び道路境界確定図書ファイリングシステムの更新により、市道の現況を的確に捉え、維持管理業務に資した。	市道の認定・廃止及び道路改良工事による変更を台帳に反映させた。また、道路境界確定図書について、必要な書類を精査しファイリングを行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
道路台帳整備率	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	道路整備状況及び境界確定図書を的確に更新することで、適切な道路の管理に資している。今後も、継続的に更新していく。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	道路台帳を更新して、市道の維持管理を適切に行う。 境界立会成果品を道路境界確定図書ファイリングシステムに反映させ、常に最新の状態を保つ。				

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	13,805	11,900	12,560	14,341	14,341
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	173	0	0	0	0
	一般財源	13,632	11,900	12,560	14,341	14,341
正職員人工数（時間数）		2,731.00	1,858.00	1,167.00	0.00	0.00
正職員人件費		11,197	7,757	4,788	0	0
トータルコスト		25,002	19,657	17,348	14,341	14,341

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		道路補修事業	担当課	建設課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	道路網・公共交通体系の整備	種別	法定事務
	基本事業	道路の適切な維持管理	市民協働	
予算科目コード		01-080201-01 単独	根拠法令・条例等	道路法

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 道路清掃・路肩除草及び道路排水施設の清掃等を行う。また、道路状況が悪化した箇所を補修する。
市民が道路を安全に通行できるよう、常時良好な状態に維持するため。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
一般交通に支障を及ぼさないように道路の維持、修繕を行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
歩行者・自転車・自動車が安全に通行できるよう、維持管理や補修を行う。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
一般交通に支障を及ぼさないように、早期に道路補修箇所等を発見する必要がある。	1．守谷市災害対策協会の協力によりパトロールを概ね年6回実施する。市民支援総合アプリの投稿レポートについて随時対応する。 2．令和2年度に道路ストック点検を実施し、補修計画を策定する。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
1．危険箇所の早期発見のため、災害対策協議会と連携して安全パトロールを重点的に実施する。また、昨年度から運用開始した市民支援総合アプリ（もりんふお）の投稿レポートの活用により早期対応を図る。 2．5年に一回の道路ストック点検を実施、計画的な道路補修を実施する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	幹線道路の舗装の傷みが激しく、修繕が急務となっている。 また道路構造物(側溝など)も損壊してきており、費用面で大規模な改修が必要になっている。 さらに道路ストック点検も計画している。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
道路を適切に維持するため、効率的に補修を実施し、通行の安全を確保する。	ふれあい道路や市道2858号線、市道3622号線等の幹線道路を計画的に舗装修繕した。 また道路除草や側溝清掃による保全や災害対策協議会によるパトロール及び職員によるパトロール並びに市民投稿型アプリの投稿レポート等により発見した道路破損箇所を迅速に修繕・改善した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
補修工事実施件数（件）	60.00	40.00	50.00	50.00	50.00
道路の不具合による事故件数（件）	1.00	0.00	1.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	道路破損箇所の早期補修により、安全・安心な道路環境を維持した。 今後もパトロール等により、危険箇所について早期対応し一般通行に支障がないようにしていく。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	ふれあい道路の損傷が進行しているため、計画的な修繕を実施する。				

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	139,170	132,690	201,742	349,643	389,483
	国・県支出金	0	0	2,063	80,327	87,515
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	38,700	36,586	36,844	36,585	35,000
	一般財源	100,470	96,104	162,835	232,731	266,968
正職員人工数（時間数）		2,596.00	4,754.00	4,661.00	0.00	0.00
正職員人件費		10,644	19,848	19,124	0	0
トータルコスト		149,814	152,538	220,866	349,643	389,483

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		橋梁長寿命化修繕事業		担当課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち		計画期間
	施策	道路網・公共交通体系の整備		種別
	基本事業	道路の適切な維持管理		市民協働
予算科目コード		01-080201-02 補助	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成25年度の定期点検を基に橋梁長寿命化修繕計画を策定し、橋梁の修繕を行い、橋梁の長寿命化を図る。	常磐自動車道をまたぐ、橋梁を含む市内61橋の橋梁点検と長寿命化修繕計画に基づき修繕工事を実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
従来の対症療法的な修繕及び架替えから、予防的な修繕及び長寿命化修繕計画に基づく架替えへ政策転換を図るものであり、既設橋の延命化等、効率的な修繕を行うことにより予算の平準化、維持管理のコスト削減を図りながら安全で快適な道路網を維持する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
歩行者・自転車・自動車が安全に通行できるよう、維持管理や補修を行う。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
修繕が必要な高速道路を跨ぐ橋梁は残り12橋あり、ネクスコへの委託は他の自治体からも依頼があるため、今後数年先までの修繕計画を精査し、年次計画により実施可能か検討協議が必要。	令和2年6月～12月 ネクスコ協議 令和3年3月 年次計画覚書締結 令和3年度は 山王歩道橋の耐震補強 新田1号橋、新田2号橋の橋面改修 後田歩道橋、深田歩道橋、素住台歩道橋の詳細設計を予定
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
ネクスコとの事前協議を取り入れ、実施可能で効率的な計画を策定する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	ネクスコへの委託が1橋追加。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
橋梁長寿命化修繕計画により効率的、計画的に補修工事を実施する。	橋梁長寿命化修繕計画により、西荻久保橋の修繕工事を実施するとともに、山王歩道橋の耐震補強設計を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
修繕実施橋梁数（設計を含む累計数）（箇所）	4.00	14.00	16.00	20.00	21.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	橋梁長寿命化修繕計画により、国庫補助金を活用し、より効果的に修繕工事を実施し、安全に通行できるようにする。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
■ 拡大 □ 縮小 □ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	国庫補助金を活用し、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、効率的・計画的に修繕工事を実施していく。			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	198,946	64,141	69,639	202,522	162,000
	国・県支出金	85,650	22,410	27,290	99,000	74,000
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	83,164	0	30,085	0	0
	一般財源	30,132	41,731	12,264	103,522	88,000
正職員人工数（時間数）		364.00	719.00	838.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,492	3,002	3,438	0	0
トータルコスト		200,438	67,143	73,077	202,522	162,000